

種子島さとうきび年表

文政十年
明治七年
明治一〇年
明治一三年
明治一四年
明治一五年
明治一六年
明治一七年
明治一八年
明治二八年
明治四十五年
大正七年
大正十三年
大正一
昭和初期

種子島氏の申出により薩摩藩より製糖が許可される

西之表戸長、牧惣平は島民の経済的逼迫を憂い、糖業の振興を決意
戸長の職を辞して、甘蔗の栽培に踏み切る

西之表の鮫島和七郎が牧惣平の糖業振興に参画

牧惣平が出征し、戦死

鮫島和七郎が聞き伝えにより白下糖を製造したが、失敗

鹿児島から製糖技手を招聘し、白下糖と三盆糖の製造に成功

白糖改良試験場の設置を鹿児島県に請願。条件付きで五百円の貸付を得る

鮫島の自宅内に試験場設置

製糖技師を招聘し伝習生十一名の訓練を開始

住吉村に製糖伝習所を設置

種子島が金久支庁管轄に入る

奄美大島を経由して読谷山を導入

収量が従来の竹蔗(地オーギ)より格段に改善

砂糖同業組合が発足

害虫チンチャツクの被害が開始

世界的糖価の下落により甘蔗農家の減少

糖業戸数八百軒

沖ヶ浜田砂糖小屋も同時期に操業と推定

昭和七年

大茎種のポニーコフニが導入
読谷山にとって代わったが耐寒性に課題

昭和十九年

種子島と同緯度のルイジアナにヒントを得て
最適種の増殖をはかりNCOS10が全島で栽培される

昭和二十二年

農林省農事試験場の種子島試験場が発足

昭和二十四年

大島が米国占領統治下に入り、種子島が唯一の黒糖生産地
異常なブームを呼び黒糖一斤四百円と大暴騰

昭和二十五年

りんかけ堂が柿内喜一商店として創業

昭和二十七年

南島開発株式会社が下西池野に製糖工場建設

昭和二十九年

種子島製糖株式会社が現和に製糖工場建設

昭和三十一年

朝日開発株式会社が設立(新光糖業前身)

昭和三十三年

朝日開発(株)が中種子町に製糖工場建設

昭和三十六年

朝日開発(株)が西之表市に製糖工場建設

昭和三十七年

朝日開発(株)が南種子町に製糖工場建設

昭和三十八年

新光製糖株式会社が馬毛島に製糖所建設(新光糖業前身)

昭和三十九年

新光製糖より分離独立し新光糖業株式会社発足

昭和四十年

馬毛島製糖所閉鎖

昭和四十九年

南種子工場閉鎖

昭和五十三年

日昇製糖が創業

平成七年

新光糖業の西之表工場を閉鎖

平成二十一年

中種子工場集中生産体制(現有処理能力千六百トン/日)

平成三十年

西之表市塩入にりんかけ堂新工場、製糖工場建設

令和元年

大東製糖種子島株式会社が創業

第一回さとうきびフェス開催



大東製糖種子島



日昇製糖



新光糖業(中種子:創業時)



新光糖業(西之表:創業時)



りんかけ堂(早朝の製糖)



沖ヶ浜田砂糖小屋